

「泊泊」の「試験」対策集中講座

広島県配置医薬品連合会



一般社団法人広島県配置医薬品連合会(小島恒治会長)は、登録販売者受験集中講座を七月三十一日と八月一日の両日にわたり広島市佐伯区湯来町のYMCAコンフォレスト湯来で開催した。八月十七日に実施される平成二十二年広島県登録販売者試験受験予定の

会員三十六名が受講した。集中講座は、同会受験対策委員会(門那良三委員長)が主導し、一泊四食十六時間の合宿型講習会として、参加費一万三千円(研修資料・用具セット付)で設定。広島県内各地から参加した受講者の内訳は、販社の従事者が六割、個人業者が四割、夫婦での参加も二組あった。年齢層は二〇歳代から六〇歳代まで幅広く、各年代層が共通の認識のもと、懸命に受講していた。

初日は午前十時から始まり、冒頭、門那委員長が「試験」対策集中講座

一日目は午前十時から午後六時までの講義のあと、夕食後、午後八時から午後十時まで予備テスト。二日目は午前八時から午後四時まで、昼食を挟んで集中講

広島県登録販売者試験受験予定者36名が参加した合宿形式の「試験」対策集中講座

員長が「八月十七日の広島県登録販売者試験には参加者全員に合格して頂く」と、講師一同も出来るだけのお手伝いをする」と決意を表明。ついで小島会長が挨拶し、「この研修会は試験対策のために開催するが、資質向上講習会の本講習の補習も兼ねている」と説明するとともに、医薬品販売の専門家としての登録販売者試験に挑戦することの重要性を説きながら、自身の体験を踏まえて参加者を激励した。

講座テキストの厚生労働省がまとめた「試験問題作成の手引き」、カラーマーカーや単語カードなど、研修資料等一式を配布し、講習に入った。

義を行い、最後に試験当日の心構え、注意事項等も伝えられた。

講師は、会員の薬剤師や登録販売者が分担して務め、第一章「医薬品に共通する特性と基本的な知識」を小池一正氏(薬剤師)、第二章「人体の働きと医薬品」を門那良三氏(登録販売者)、第三章「主な医薬品とその作用」を金田和宏(薬剤師)、二反田正弘(登録販売者)、小池、門那の四氏、第四章「薬事関連法規・制度」と第五章「医薬品の適正使用・安全対策」を小島恒治氏(登録販売者)、補足とまとめ

を小池氏が担当した。しばしば持ち時間をオーバーするほどに熱の入った講義が行われ、門那委員長が長は時間調整に追われた。講習会場では、会員同士和やかな雰囲気もあったが、二日間、食事時間以外全てが研修時間という、かなり強行な内容にも関わらず、終始真剣に受講していた。同連合会には四月現在、百十五名の登録販売者試験合格者が在籍しているが、本年度中に会員三百十名の五〇%以上の合格者輩出を目標としている。